

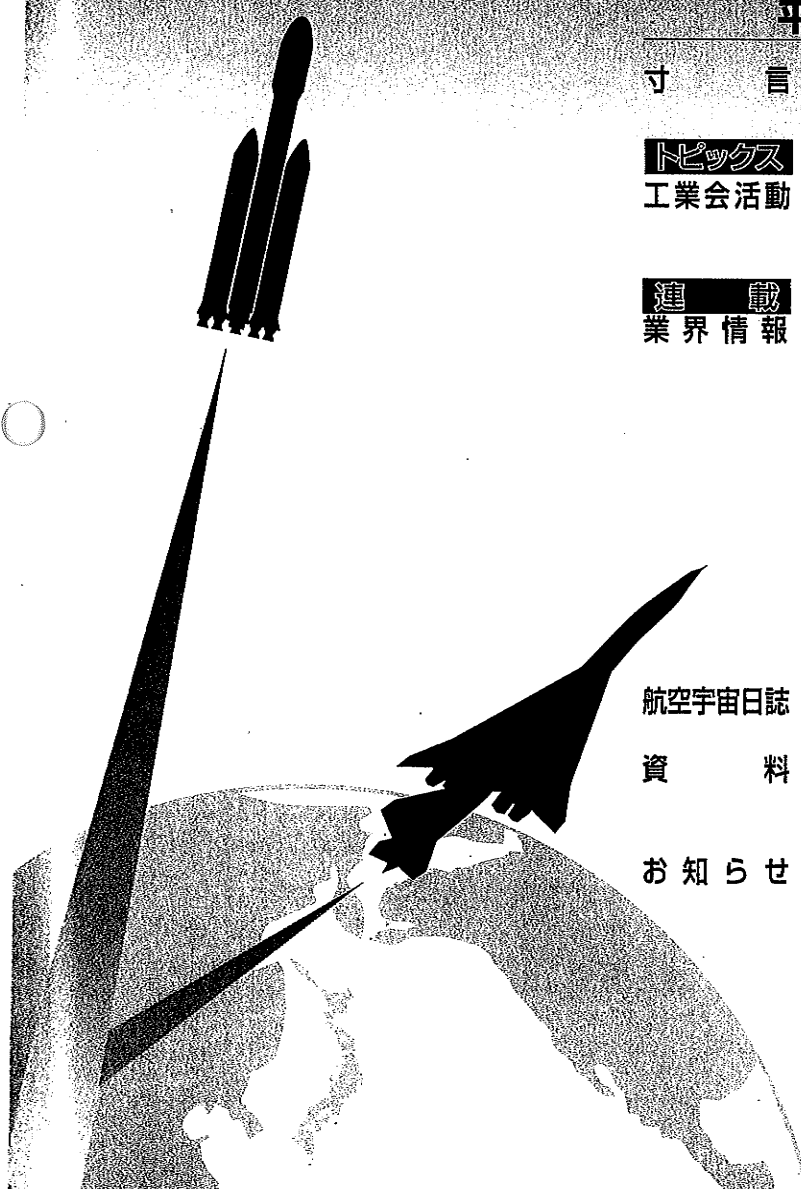
航空と宇宙

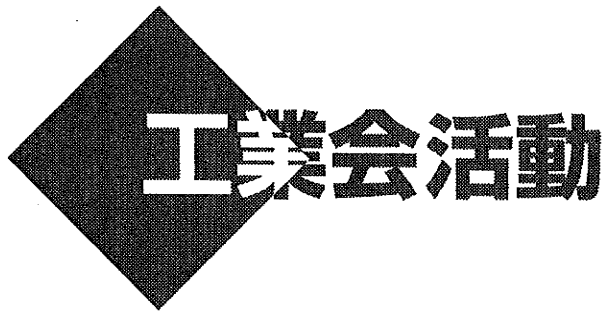
日本航空宇宙工業会会報 ISSN 1344-1760

0001014

平成12年4月号 目次 (No.556)

寸言	三波工業(株) 常務取締役 今井寿一郎 「自動試験システムについて」	
トピックス	TOKYO AEROSPACE 2000開幕(速報)	1
工業会活動	「宇宙産業技術戦略報告書」概略について	4
	ACAP(アジア地域対応型航空機等研究開発) フォーラムを開催	11
連載	変約するリージョナル航空機市場と産業界 [上]	13
業界情報	ボーイング777-200X/-300Xの生産決定	19
	平成12年度の知的材料・構造システム研究開発計画	21
	スペースシステムズ/ロラル社、MTSAT新1号機受注	24
	MB-XXエンジンの日米共同開発順調	25
	日本GEエンジンサービス、4月1日操業開始	26
	最新型BK117C-2型ヘリ、初飛行成功	27
	川崎重工業、次世代航空機用駆動システム開発	28
	石川島精密鑄造と松本石川島精密鑄造が合併	28
	IHI、ジェットエンジン用シャフト1万本の生産達成	29
	三菱電機/日本電池、衛星用大型電池開発に成功	30
	英政府、A3XX開発に5億ポンド投資	31
航空宇宙日誌	(1)航空関係	33
	(2)宇宙関係	36
資料	平成11/12年度航空機生産・輸出・受注額見通し	38
	通関統計(平成11年1月~12月)	42
	航空機生産修理実績(平成12年1月分)	44
お知らせ	(1)ILA 2000/ベルリン・ブランデンブルク 国際航空宇宙ショー	45
	(2)第22回宇宙技術および科学の国際シンポジウム (第22回ISTS)開催案内	46
	(3)平成12年度「航空科学博物館」行事予定	47
	(4)委託調査研究の平成12年度成果発表会開催について	48
	(5)第202回 理事会議事要旨	49





「宇宙産業技術戦略報告書」概略について

(社)日本航空宇宙工業会は、新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) / 通商産業省の委託を受けて、本誌昨年12月号で設立の旨ご紹介した「宇宙産業技術戦略検討委員会」を当工業会内に設置し、「宇宙産業技術戦略報告書」をまとめた。以下に、概要を報告する。

尚、1～3項の内容については、委員会報告を受けて作成したものである。

「宇宙産業技術戦略」について

1. 「宇宙産業技術戦略」の位置づけ

「宇宙産業技術戦略」は、平成12年3月に開催された「国家産業技術戦略検討会」(座長：吉川弘之 日本学術会議会長)にて「国家産業技術戦略」として取りまとめられる予定である。

2. 検討経緯等

「宇宙産業技術戦略」は、(社)日本航空宇宙工業会に設置された「宇宙産業技術戦略検討委員会(委員長：中山 勝矢 広島工業大学教授)」において、通商産業省、科学技術庁、郵政省等の関係省庁、宇宙関連主要企業及び学会からの参加者により、平成11年10月以降審議を重ねて検討が行われ、平成12年2月に取りまとめられた。

3. 「宇宙産業技術戦略」概要

(宇宙産業の特徴)

- ・ Space Publication/CPSによれば、世界の宇宙産業の2002年における売上高は、1998

年の売上高の約1.5倍と予想されており、宇宙産業は、今後とも急速に成長する産業と見込まれる。

- ・ 宇宙産業技術は、幅広い分野の先端技術を用いる総合的産業技術であり、付加価値産業の創出、他産業への波及、先進性・新規性等の特徴を持つ。

(基本的な考え方)

- (1) 宇宙産業技術については、我が国として、官民の役割分担を踏まえた戦略的な取組を行っていくことが重要である。以下に官が主体的に取り組むべき分野と民が主体的に取り組むべき分野を示す。

〈官が主体的に取り組むべき分野〉

- ① 宇宙産業に対する社会的要請・制約への対応

- ・ 現在のところ市場がない、もしくは、非常に小さくマーケットメカニズムが働きにくい以下の分野については、主として官が主体となってプロジェクトを遂行する必要がある。

- (i) 地球環境の保全に資する技術の開発

- ・ 地球温暖化等を観測、監視する衛星によ

るリモートセンシング関連技術の開発。

(ii) エネルギーの安定供給確保に資する技術の開発

- ・石油等の資源探査に有用な岩石分布等を観測可能とする衛星によるリモートセンシング関連技術の開発。
- ・新エネルギー等の利用技術としての貢献可能性も視野に入れた太陽光発電技術（宇宙太陽発電技術）の開発。

(iii) 経済社会新生の基盤となる高度情報通信社会の実現に資する技術の開発

- ・高度情報通信社会の実現に向けての衛星ネットワーク技術等の開発

(iv) 高齢社会における安心・安全で質の高い生活の実現に資する技術の開発

- ・安全保障、危機管理、位置探索等に資する衛星によるリモートセンシング関連技術の開発。

②宇宙産業技術の着実な発展のための環境整備

耐極限環境性に関するデータベースやガイドライン等の知的基盤や標準に係る「環境整備」。

〈民が主体的に取り組むべき分野〉

マーケットメカニズムが働きうる分野については、基本的には民が主体となって取り組むことが重要である。

①技術革新の推進及び市場ニーズへの対応

- ・市場シェアの獲得及びマーケットの拡大に資する低コスト化等の技術や高付

加価値化技術等の新規市場を創出するための革新的技術

②確実なミッション達成、遂行への対応

- ・確実に求められた機能、性能を達成、遂行し、所要の成果を得るためのシステム工学、シミュレーション技術等の基盤技術

(2)総合的な戦略

(1)における官民の役割分担が基本であるものの、宇宙開発は膨大なコストとリスクを伴い、現時点では民のみでは民の分野の対応が困難であることを踏まえつつ、最終的には、以下の考え方で技術開発を進める。

- ・民は、マーケットシェアを獲得した経験のある技術や宇宙に応用可能な技術等市場性を有する技術について、官のプロジェクトを生かしつつ、高機能化、低コスト化を図り、積極的に開発を進め我が国宇宙産業技術の競争力を強めていくことが重要である。
- ・官は、このような民の積極的な事業活動に対応し、商業化、実用化に向けて、関係者とも連携・協力しながら、宇宙実証機会の提供や試験設備の充実及びプロジェクトをはじめとする諸支援を今まで以上に充実・拡大していくことが重要である。

4. 具体的技術項目

宇宙産業技術戦略鳥瞰図、連関図及び個別具体的な技術項目を以下に示す。

(担当：(社)日本航空宇宙工業会技術部部长 坂本規博)